



スキマタイムズ



もっとお互いを理解するための場や時間を



日本自立生活センター自立支援事業所 2021年6月25日発行 第123号

デリソフター 試食会のお知らせ

見た目そのまま

やわらかく

皆さん初めましてデリソフター試食会実行委員会です。

この度、私達はギフモ株式会社が開発したデリソフターという機械を用いた試食会を企画しました。

食事をする際、形があるものは形があるまま食べたい、障害が進行した時に食事形態がどうなるか不安など、食べることに難しさを感じる方々に、食事形態の一つの選択肢としてデリソフターが活用できるのではと考えています。

機器の説明だけでなく、実際に調理した食品を試食していただける機会ですので是非ご参加ください。

【デリソフターの簡易な説明】

デリソフターと言う機械を使用すれば、お肉や硬い野菜等の咀嚼・嚥下の難しい食べ物をそのままの形で、フォークやスプーンで食べやすいサイズまで柔らかく出来ます。咀嚼の方も舌で上顎・下顎で挟み込めば簡単に咀嚼出来る柔らかさにすることが出来ます。

デリソフターURL
<https://gifmo.co.jp/delisofter/>



日時 7月13日(火)・14日(水) 二日間開催

第一部/12:00~13:00

第二部/15:00~16:00 ※両日いずれも二部制

場所 本体事務所

定員

火曜第一部は3名まで

火曜第二部・水曜第一部・水曜第二部は4名まで

応募方法

下記のメールアドレスまで、自分が参加できる日程と時間をお送り願います。

jcil.eats@gmail.com



応募締め切り

7月10日(土)まで

先着順に応募して下さった方にこちらからメールを送らせて頂きます。

質問等あれば、そちらも上記メールアドレスまでお送り下さい。

また、アレルギーがある方はお伝え下さい。

コロナ対策や準備等はこちらで行いますので、是非お越しく下さい。
それでは試食会当日お待ちしております。

担当：野瀬・今西

日本自立生活センター自立支援事業所 編集担当：岡山・春木

TEL : 075-682-7950 E-mail : jcil-kyoto@jcil.jp URL : <http://www.jcil.jp/zigyosho/index.html>

難病の「難」って「何」のこと? の講師を終えて

おした ようこ

今回は貴重な機会を頂きありがとうございました。

介助を提供される側/提供する側、という立場を越えてともに学びあう勉強会はとても魅力的で楽しい時間でした。自分の事を話すというのは勇気のいるもので、研修の講師という役目には毎回どぎまぎさせられますが、どの人の言葉も同じ重さで大事にされる場の雰囲気、そんな私の背中を押してくれました。

今回の私の話を通して「生きづらさが見た目でわからない」ということに起因する周囲の無理解や無関心は、個人だけでなく、社会の慣習や制度全体に及んでいることに気づいてもらえたかなと思います。「障害者基本法」の障害の定義のなかに、いわゆる“難病”が入るようになって10年ほどになりますが、まだまだ当事者の実態に法律が追いついていません。卵が先か、ニワトリが先か、とよく言われますが、いわゆる“障害者”の生活を支える法律の多くが、いまだに難病・慢性疾患の患者全てを対象にしていないことは、この見えにくさ、分かりにくさに起因するところが大きいと思います。しかし、「難病」と「障害」は本来ははっきり分けられるものではなくスペクトラムの形(曖昧な境界をもちながら連続していること)をとっており、非常に個別性が高く曖昧なものなのです。このことは障害者支援の現場において残された課題の一つになっていくと思います。

もう一つ、私たちのような日常的に医療の助けを必要とする障害者の存在によって見えてくるのは、いわゆる「社会モデル」の考え方は、決して医学/医療を否定しているわけではない、という事です。10年ほど前に新たに日本でも承認された何種類かの薬の力がなければ、私はもっともっと布団の中で充電が必要だった以前の身体に戻ってしまいます。私にとっての薬は、症状を軽減することによって、生活の質を上げるための便利な自助具でもあるのです。障害のある者の日々の生活をより快適で、安心なものにしていくために、日進月歩の医療の力を借りることは必要不可欠です。しかし現在、日常的に介助が必要な障害のある方たちは、私たち病者以上に通院や入院などの医療へのアクセス自体が難しい。在宅での医療提供が難しい事が一番の足かせとなって、病院や施設からなかなか地域への生活に移行できず苦労している方がたくさん、たくさんおられるのではないのでしょうか。さらに、もともと障害のある者は経済的にも困難を抱えるので、医療費の工面に苦労して、その結果受けられる医療に制限が発生してしまいます。

まだまだマイナーな存在ですが、内部障害や難病など、見た目で症状が困りごとの伝わりにくい人たちの生きづらさが、障害のある人みんなの、もう一歩二歩、よりよい生活近づくためのヒントを与えてくれていると思います。

最後に、『(障害を)隠したい、という人もいるだろうと思うのだが、わざわざ「ヘルプマークを付けることで可視化したい」というのは世の中の認識の変化かなと思う。』という意見が出され、なるほどと思いました。色々悲しい、悔しい事件や事故が起こる私たちの毎日ですが、今回皆さんと発見したような“変化”は確実に起こっているのです。私自身、これからも前を向いて外に出ていくことで、社会の色々なことを変えるチャンスを増やしていければと思います。

滋賀県旧優生保護法情報公開請求訴訟 裁判傍聴へのご協力をお願いします

2021年6月15日
連絡先 村田恵子
携帯:090-8886-9377

Email : miyabi-kyotojapan@docomo.ne.jp

(呼びかけ人)

桐原尚之(全国「精神病」者集団)
香田晴子(日本自立生活センター)
立岩真也(立命館大学)
利光恵子(優生手術に対する謝罪を求める会)
西村清忠(きょうされん京都支部)
長谷川唯(母体保護法下の不妊手術・中絶被害者を守る会)
ピープルファースト京都
村田恵子(障害者権利条約の批准と完全実施を目指す京都実行委員会)

京都新聞社は、2018年に滋賀県における旧優生保護法(1948~96年)下での強制不妊手術関連の文書について公文書開示請求をおこないました。一部開示とされた文書は、ほとんどが黒塗りにされていたため、同社は滋賀県情報公開条例に基づき不服審査請求を出しました。その結果、滋賀県公文書管理・情報公開・個人情報保護審議会(以下、審議会と略)は、2019年8月に被害者と保護義務者の名前と住所、審査を申請した医師の名前以外はおおよそ全面開示が妥当とする答申をおこないました。

ところが滋賀県は、答申に反して審議会が開示すべきとした449カ所中、349カ所を再び黒塗りにして開示してきました。そこで、同社は滋賀県に対して優生保護法情報公開請求訴訟を提訴することになりました。

わたしたちは、優生保護法下で行われた強制不妊手術等の人権侵害に対して謝罪と賠償、再発防止策を求め、2019年4月には「旧優生保護法に基づく優生手術等を受けた者に対する一時金の支給等に関する法律」の成立へと漕ぎ着けました。まだまだ、旧優生保護法をめぐる残された課題が指摘される中、地方公共団体に保管されている旧優生保護法関連文書は、実態を解明し検証につなげていく上で不可欠なものとなります。このたび、滋賀県が審議会の答申に反してまで黒塗りに一部開示したことは残念でなりません。

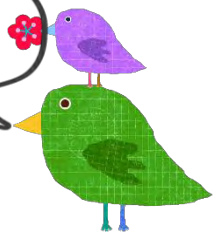
わたしたちは、滋賀県優生保護法情報公開請求裁判への社会的関心の高さをアピールしていくため、滋賀県優生保護法情報公開請求裁判への傍聴を呼びかけます。

裁判傍聴と報告会の日時と申込方法について

日時：2021年7月6日(火)14時30分開廷

場所：大津地方裁判所本館101号法廷

まだまだ続いています！
ご協力をお願いします
香田



(本館ロビーにて1時間前に傍聴整理券が配布されます。多数の場合は抽選となります。)
※車いすの方のスペースは現在のところ4席となっておりますが引き続き交渉しています。
(車いすの方で裁判傍聴を予定されている方はご連絡ください。)

大津地裁での傍聴が終わってから隣接する逢坂市民活動センター大会議室に於いて、当日の陳述・弁護団の主張・滋賀県の主張等、訴訟内容の報告をいたします。

新型コロナウイルス感染予防のため、定員がありますので参加予定の方は恐れ入りますが下記連絡先までご連絡ください。

尚、情報保障(手話通訳・文字通訳など)が必要な方は6月30日までにご連絡ください。ご不明な点などございましたらお気軽にご相談ください。

報告会はオンライン配信を行いますので、参加希望の方は名前とメールアドレスを記入してメールで下記の申込先に申し込んでください。後ほど、報告会参加のURLを送らせていただきます。

申込先

村田恵子 携帯:090-8886-9377

Email : miyabi-kyotojapan@docomo.ne.jp

植田カフェ (仮)

初めまして。植田カフェ (仮) と申します。

これから毎月第 3 火曜日の午後に本体事務所の一角をお借りして、コーヒー好きな私がセレクトした美味しいオーガニックコーヒーを提供します。

利益を出さない実験的なプロジェクトですので、お得にお飲みいただけます。

日時 **7月20日(火) 14:00~17:00**

以降、毎月第3火曜日 (8/17、9/21、10/19、11/16、12/21)

場所 本体事務所 (8月からは変更の可能性あり)



皆さん、午後の一服のお供にぜひ一杯飲みに来てください。
*マイカップのご持参大歓迎です!



プロジェクト代表
植田健夫 (コーヒー好きの筋ジス当事者)

Menu

- アイスコーヒー
- アイスコーヒー (ノンカフェイン)
- アイスカフェオレ
- アイスカフェオレ (ノンカフェイン)
- アイスティー (ストレート、ミルク、レモン)
- 焼き菓子



職員紹介 35

職員自己紹介

- ①なまえ ② JCIL との関わりはいつから?
- ③ きっかけは? ④ どんな仕事をしていますか?
- ⑤ 大切にしていること・これからしたいこと

- ①井上 朋子 (いのうえ ともこ)
- ②14 年くらい前から登録介助者として介助に入っていました
が、今回職員になりました。よろしくお願ひします。
- ③それまで販売や語学講師の仕事をしてきましたが、もっと体
を使う仕事をしたくて、知人の紹介でJCILを知り応募しまし
た。
- ④介助とコーディネーター(今後)です。
- ⑤大切にしていること：ホッとできる時間と場所を持つこと
これからしたいこと：冷蔵庫を、いつ開けてもすぐ食べられ
る美味しいものが入ってる状態にして
おくこと(笑)



熱中症びっくり3大数字

発生場所	屋内 50%!! ← 半分も!!
時間帯	夜間 16%!!
救急搬送	65歳以上 52%!

しっかり予防で夏を乗り切ろう

こんな時になりやすい「**熱中症**」!!

気温が
高い

湿度が
高い

日差しが
強い

激しい
運動の後

体調不良

塩分補給

水分補給

涼しい服

室温確認

涼感グッズ

帽子着用